40　その凧をあげた時のそう観といったら。
41　戦友たちは、みんな手をたたき、隊長さんもそう眼鏡でにこにこ見上げたんですって。
42　真っ青な冬の空にあがった五十まいの巴御前は、目鼻立ちこそ、少しずつちがっていましたが、どの顔もとてもかわいらしかったといいます。

文図・語彙・文法

40
その凧をあげた時の
↓
そう観といったら。――――――（　　）

そうかん【壮観】（名・形動）
規模が大きくすばらしいさま。また、その眺め。
「一な眺め」「全員そろうと一だ」
派生 一さ（名）

たら　（既出）

41
戦友たちは、――――――みんな手をたたき、
隊長さんも――そう眼鏡で――にこにこ見上げたんですって。

42　真っ青な冬の空にあがった
五十まいの
巴御前は、――目鼻立ちこそ、――少しずつちがっていましたが、
どの顔も――とても――かわいらしかったといいます。

めはな-だち【目鼻立ち】
目や鼻の形や位置。器量。顔だち。「一のいい女」

こそ（係助）
1　文中、種々の語に付いて、それを取りたてて、強く指示する意を表す。
(1) 多くの事柄の中から特定のものを取り出して強調する。
「ことし一がんばるぞ」
(2) 動詞の仮定形に助詞「ば」の付いた形に付き、既定条件を表して、後件の理由を強く提示する。「あなたのことを思えば一、注意しているのです」
(3)（「こそすれ」「こそあれ」「こそなれ」などの形で）事実は事実として一応認めておくが、という意を表す。「ほめ一すれ、決して笑いはしない」

●　書かれているなかみ（映像・感情・説明）
これは、吉野さんの話そのものだろう。父の凧に、戦友たちをはじめ、隊長さんも喜び、心が和んでいる。巴御前の顔が、とてもかわいらしいと聞いた母の思いも、察することができる。戦地とは思えないほどの、穏やかな光景だ。それが、悲劇につながろうとは・・・・。

T　では、そうやってこつこつと作った凧。できたんだ。
　お父さんは、凧をどうしたんだろう？
C　凧をあげた
T　凧をあげたときの、とあるから、凧をあげたんだ。
　それがどうだって？
C　壮観だった。
T　うん、書き方はちがうけれど、壮観さとかいてある。壮観というのは、どういうこと？（辞書引き）
C　すばらしい。
C　規模が大きくてすばらしい。
T　そうだね。ただ、すばらしいんじゃなくて、
C　規模が大きい。
C　そのながめ。
T　つまり、ここではどうだろう？
C　凧の規模が大きかった。
T　そうだね。そのことは、次の文で書いてあるから、ここでは、ちょっと置いておいて。
　凧は、壮観だった、とは書いてないね。どうなってる？
C　壮観といったら。
T　なんだか、途中やめになっているね。こういう言い方、今までもでてきたね。この場合、壮観といったらに続けるとしたら、どうなる？
C　すばらしかった。
C　すごかった。
T　うん、そういうことだ。それを、壮観といったら、で止めると、気持ちが強められる。「そりゃあ、すごいもんでしたよ」などという言葉が後に続くんだろうけどね。離している方からすると、壮観といったら、で止めて、あとをいわないというのは、どういうことだろうね。
C　言わなくてもわかる。
C　思い出してるんだ。
T　最後まで言わなくても通じる。それに、吉野さんの頭の中に、凧のことをじっと思い出して、途中でやめたのかもしれない。
　じゃあ、次の文。
　二つの文があるよ。どういう文かな。
C　戦友たちはたたき。

(4)「それこそ」の形で、副詞的に用いる。
「そんなことをしようものなら、それ―大変だ」
後略

C　隊長さんも、見上げたんですって。
T　戦友のことと、隊長さんのことが書いてある。
　戦友たちは、？
C　手をたたいた。
C　みんな手をたたいた。
T　手をたたくと言うことは？
C　拍手。
C　みんな、喜んだ。
C　やったぁ、すごいっていう気持ち。
T　そうだね。花火大会の時なんかも、上がる花火に向かって、手をたたいたりする。そういうときは、「すごい」っていう気持ちなんだ。感動の拍手というんだよ。
　そして、隊長さんも？
C　見上げた。
C　双眼鏡で見上げた。
C　にこにこ見上げた。
T　双眼鏡で見上げるというのは、どういうこと？
C　双眼鏡を使って、見た。
C　双眼鏡を使うくらい、長いんだ。
T　そうだ。双眼鏡を使ったんだ。双眼鏡というのは、わかるよね。（わからなければ、解説、実物提示）あの頃、戦場では、隊長さんとかぐらいしか、双眼鏡はもっていなかった。ほかの人は、もってないんだ。隊長さんが双眼鏡でみようとするくらい、たこは？
C　長かった。
C　遠かった。
C　壮観だったんだ。
T　そういうことだね。そして、隊長さんのようすは？
C　にこにこ
C　喜んでいる。
T　そうだね。だって、この凧は？
C　隊長さんも戦友も、みんなが協力した。
C　できるのを楽しみにしていたんだと思う。
T　そんな気持ちもあるだろうね。戦地なのにねえ。
C　すごく平和な感じ。
C　みんな、いい人ばかり。
T　戦争に行っているという感じではないね。でも、凧以外のところでは、いろんなことをやっているんだよ。
　さて、次の文は、何のこと？
C　巴御前
T　凧とは言わないで、巴御前となっているね。つまり何が言いたいかというと。
C　巴御前の顔のこと
T　うん、凧は壮観だったけど、ここでは、そこに父がかいた巴御前の絵のことだ。くわしくしているね。
C　真っ青な冬のさらにあがった
C　五十枚の巴御前。
T　わかることがあるよ。
C　空は真っ青で、よく腫れている。
C　冬。

ＣＣ　凧があがるんだから、風が吹いている。
ＣＣ　寒そう。
Ｔ　そうだね。冬のよく晴れた日、風が吹いているんだ。見上げたら、空は真っ青。そこに、五十枚の凧があがっている。頭に、絵をつくってごらん。できた？
　さて、そこで、その巳御前がどうだって？二つあるよ。
ＣＣ　ちがっていた。
ＣＣ　かわいらしかった。
ＣＴ　何がちがっていた？
ＣＣ　目鼻立ち。
ＣＴ　目鼻立ちってわかる？
ＣＣ　目や鼻の格好。
ＣＣ　顔がちがう。
Ｔ　まったく同じ顔ではないんだね。でも、全然違うというわけではなく？
ＣＣ　少しずつ
ＣＴ　少しずつだ。だから、ぱっと見たら、
ＣＣ　同じような顔に見える。
Ｔ　何しろ、一枚一枚、全部手でかいたんだものね。同じにはならない。
　ちがっていましたが？
ＣＣ　くいちがい。
ＣＴ　何がくいちがっている？
ＣＣ　どの顔もかわいらしかった。
ＣＣ　とてもかわいらしかった。
ＣＣ　目や鼻の形はちがうけど、どの顔もかわいらしかった。
Ｔ　そうだね。目鼻立ちにそちがっていましたが、と書いてあった。「こそ」というのは、あまり使わない言い方だけど、「勉強にそ苦手だけど、スポーツもできるし、とてもやさしい人です」みたいな使い方をするんだ。ちょっと、強めた感じ。「こそ」のあとには、それと食いちがうことが書いてあることが多いようだよ。
　つまり、目鼻立ちがちがっていることなんかは？
ＣＣ　関係ない。
ＣＣ　どれもかわいいから、たいしたことない。
Ｔ　そうだね。でも、ここで、ちょっと前を思い出してほしいんだけど、お父さんがかいた巳御前の顔、どう書いてあった？
ＣＣ　赤いよろいを着、なぎなたをかかえ、きりりとはちまきをしめ、目をつり上げ、口をきゅっと結んだ、美しい女大将の顔。
Ｔ　そうだね。かわいいという感じ？
ＣＣ　美しい。
ＣＣ　勇ましい。
Ｔ　ところが、ここでは、かわいらしい顔なんだ。どういうことだろう？お母さんの言葉にあったじゃない。
ＣＣ　反江のことを思ってかいた。
ＣＣ　赤ちゃんのことを思ってかいたから、かわいらしくなったんだ。
Ｔ　どうも、そんな感じがするね。戦反たちには、かわいらしい顔と見えたんだけど、それを聞いたお母さんは、どう感じ

だろうね。

Ｃ　お父さんは、戦地に行っても、友江のことを考えていてくれた。

Ｃ　お父さんは、ずっと家族のことを思っていたんだと思った。

Ｔ　お父さんの気持ちが、お母さんには伝わっただろうね。家族愛っていうんだ。戦争に行っていても、家族のことは忘れていない。

ほかにわかることはありますか？